

南山短期大学人間関係研究センター事業報告 (1990年度)

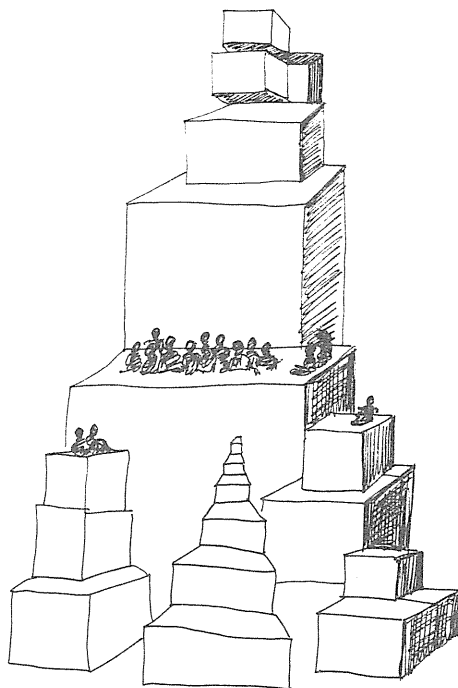
社会人研修

1. 社会人研修概要	177
2. 人間関係基礎研修講座（一般研修）	178
3. 人間関係専門研修講座（継続研修）	181
4. 人間関係特定研修講座	183
5. コンサルテーション	185
6. 社会人研修参加者統計	187
7. 1991年度人間関係研究センター事業予定	188
南山短期大学人間関係研究センター規定	193

■ 社会人研修／概要

“ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる”

—サン・テグジュペリ



センターの重要な活動である社会人のための公開講座は、昭和52年のセンターの発足時から毎年定期的に開講されている基礎研修講座を中心に、各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に、センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能を果している。

基礎研修講座（一般研修）は昨年春秋3回開催され、既に29回を重ねている。基本的なプログラムは週1回約3時間（午後6時30分～9時）の研修を10週間続けて1コースとし、体験学習による自己理解や他者理解、コミュニケーション・プロセス、グループ・プロセスの基礎的な学習を目指している。受講者にとっては、利害関係にとらわれることなく、さまざまな人々と接触を持つことも魅力の一つであり、そこから新しい友人関係や仲間意識が生まれ、自主研修グループに育っていく場合もある。

専門研修（継続研修）としては、“自己理解を深める”研修と“グループ・プロセスの理解を深める”研修とが基礎研修に続く研修として開講されている。中部地区では、はじめての、Tグループを中心とした人間関係トレーニングやセルフサイエンスセミナーは回数を重ね、TAセミナー、からだとことばのセミナーは、宿泊研修から、センターでの通い研修にかわった。また、新しく、ボディーワークセミナーも開講された。

特定の専門職にある人々のための特定研修講座としては、ひきつづき、「教師のためのセミナー」、組織の中での教育にかかわったり、関心をもっている人のための「組織内教育セミナー」も、回数を重ねている。

一方、コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門的機能であり、1984年度「名古屋いのちの電話準備委員会」約100名の電話相談員の「人間関係基礎訓練」以来、「名古屋いのちの電話」は、1985年7月から相談業務に入り、センターは毎年「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助をつづけている。種々地域団体の研修プログラムをはじめ1989年度国立婦人会館、1990年度名古屋市生涯教育センターからのプログラム開発に対して講師としてセンター研修員が派遣されている。

■ 社会人研修／人間関係基礎研修講座（一般研修）

自分自身のことをもっとよく知りたい、自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい、グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたいなど人間関係の学習の主要テーマを、特別に開発された実習や個人やグループで実施しながら、体験的に学習していく。

この研修は、春・秋各一回毎週一回ウィークデイの夜間（6：30～9：00）を用いての、10週間のコースと月曜日の午前を用いての同一プログラムがある。

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問わない）

〔参加定員〕 各30名

この講座は開講当初は「入門講座」と称していたが、第9回から「基礎研修」と改められ、これまで通算29回、参加者917名を数えている。

ここでは、その中から第29回講座を報告する。

第29回人間関係基礎研修講座

開講期間：1990年9月28日～12月21日 毎週火曜日午後6時30分～9時 10回

参加者：38名

担当者：星野欣生、中野清、まどか庸代

ねらいは、前回までの基礎研修講座と基本的には同じだが、担当スタッフの特徴も生かしつつ、プログラムが工夫されている。

「ひととひとがかかわる、とはどういうことかを握り、

*わたしに気づき

*相手に気づき

*かかわることに気づき

新しいかかわりを創造する」（第29回）

因みに第27回は「対話やコミュニケーションをするときの自分自身の話し聴く能力、チームワークやリーダーシップなど小集団の中での有名な人間関係のあり方などを、体験を通して学ぶ」である。第29回においては、従来の体験学習、グループという視点に、「ひと」「かかわる」という哲学的考察を加えたプログラム開発も試みられた。全日程を後にあげたので参照してほしい。

第29回 人間関係講座 全日程表

人間関係研究センター
 基29 1990.9.28~1991.1.11

18:30	No.1 9月28日 ねらいを明かにする 開会 ・歓迎の言葉 ・個人のねらいの明確化 『私の旗』 実習 「Forced Choice」	No.2 10月5日 学び方を学ぶ 実習 「パスは待ってくれない」 プロセッシング・タイム	No.3 10月12日 日常のコミュニケーションの中でとんだ思い込み誤解に困ったことはありますか？ 小講義 「体験すること学ぶこと」 一体験学習について 実習 「第一印象」 プロセス・タイム	No.4 10月19日 からだだからのことば、気づいていきますか？ 実習 「からだからの旗づくり」 小講義 「ノンバーバル・コミュニケーション」 休憩 実習 「無言の探索」 プロセス・タイム	No.5 11月2日 このころのことばが気づいていきますか？ これまでにやってきたこと 実習 「ある主婦の死」 休憩 小講義 「価値観への気づきと対人関係」	No.6 11月9日 いのち、大切にしていますか？ 実習 「いのちの旗づくり」 休憩 小講義 「いのちを科学する」 一よく遊びよく学びよく生きる— 「いのちをめぐる人間関係」	No.7 12月7日 ことばでどうかわりますか？ これまでをふりかえって 小講義 「グループ・プロセスの諸要素」 実習 「グループ活動と観察」(1) ・グループA...グループAで話し合う ・グループB...Aの状態と観察 休憩	No.8 12月14日 ことばでどうかわりますか？ 実習 「グループ活動と観察」(2) ・グループA...Bの状態と担当者の観察 ・グループB...グループで話し合う 休憩 小講義 「コンテストとプロセス」	No.9 12月21日 かかわりがうみだすものは？ 実習 「コンセンサスによる集団決定」(NASH) プロセッシング・タイム	No.10 1月11日 ひととひとがかかわる... 実習 「五目ならべ」 プロセッシング・タイム 「全体をふりかえって」 お茶をのみながら 自分へのページ 閉会
-------	--	---	--	--	---	---	---	---	--	--

第28回 人間関係講座 全日程表

人間関係研究センター
 基28 1990.5.11～7.20

18:30	No.1 5月11日	No.2 5月18日	No.3 5月25日	No.4 6月1日	No.5 6月8日	No.6 6月22日	No.7 6月29日	No.8 7月6日	No.9 7月13日	No.10 7月20日
	開 会	導 入 グループ編成 実習2 問題解決の実習 「お母さん急いで！」	導 入 自分の目標を作る 実習2 「プロックモデル」	導 入 今日のねらいの説明 実習3 「さき、話し、観察する」	導 入 スキット 「思いやり」 実習4 「POPO(1)」	導 入 実習5 「POPO(2)」	導 入 ウォーミングアップ 実習6 「Self・Box」	導 入 実習7 「目かくし探検」	実習8 「コンセンサスによる集団決定」 一砂漠で遭難した時にどうするか— • 導 入 • 個人決定 • 集団決定	自分のコミュニケーションのあり方の検討 チェックリスト、記入と集計 コミュニケーションの5つの要素の説明 3人組で話し合う
20:00	休 憩	休 憩	審 査 ふりかえり (グループで)	休 憩	休 憩	小講義 「対人相互作用の循環課程」	休 憩	休 憩	休 憩	休 憩
		ふりかえり (個人で) 19:55	ふりかえり (グループで)	ふりかえり (グループで)	休 憩	休 憩	わからあい & Tea break	わからあい 「Self・Box」 わからあい	• 正解発表 • ふりかえり	小講義 「対話について」 一人になってふりかえる
21:00	休 憩	個人メモ	ふりかえり (全体で)	ふりかえり (全体で)	ま と め	ま と め	ま と め	ま と め	ま と め	全員で分ち合う 終了式
		個人メモ	休 憩	休 憩	ま と め	ま と め	ま と め	ま と め	ま と め	全員で分ち合う 終了式

■ 社会人研修／人間関係専門研修講座（継続研修）

● TA入門

開催期間 1990年10月4日～12月6日 毎週金曜日 午後6時30分～9時 8回
参加者 30名
担当者 中堀仁四郎

講座のねらいとして

- ・トランザクショナル・アナリシス（TA）の基本的な考え方を理解する
- ・TAを用いて自己理解を深める
自分の行動の基にあるものに気づく
自分のなかの可能性を見つける
- ・自律的な人間関係のありかたを探る

が提示され、あわせて、参加者自身のねらいも明確にした。

また、TAで大切にすることとして、

いまここ

自発性

親密

私はOK、あなたはOKの関係であることに気づき、それを生きていく。

を、お互いに諒解して、プログラムが始まった。

プログラムの概要

- (1) 導入、ねらい、学習のすすめ方
- (2) 自我状態Ⅰ
- (3) 自我状態Ⅱ
- (4) 自我状態Ⅲ
- (5) ストローク
- (6) やりとり分析
- (7) スタンプ集めとラケット
- (8) 時間をどのように使っているか
- (9) 人生脚本Ⅰ
- (10) 人生脚本Ⅱ

参加者の感想（アンケートから）

- ・自分で奢っていた所があったように思う。違った面から自分をみつめてみたい。
- ・自分のこころの状態に気づきやすくなった。
- ・「～でなければならない」の制約が減ってきた気がする。
- ・もっと時間が長かったらよい。
- ・自分を一つ新しくした。
- ・自分を客観的にみつめるきっかけになった。
- ・物事の両面をみるように心がけている。
- ・理論と実践がうまくミックスされていて、楽しく参加できた。

● ボディーク

今年度よりスタートしたボディークセミナーでは、

このセミナーでやってみたいこと、

- ゆったりとくつろいでみよう！
- からだの語りかけに耳をかたむけてみよう！
- ちょっと脱いだりほどいたりして広がりを楽しんでみよう！
- 自分の中で生命（エネルギー）の水脈を見つけてみよう！
- からだって（わたしって）何だろう！
- 自分なりの答えを探してみよう！



というねらいのもと、今年度よりスタートをし、好評であった。

開催期間 1990年5月12日～7月21日 毎週土曜日 午前9:30～12:00 8回

参加者 22名

担当者 グラバア俊子

参加者の感想（アンケートから）

- 意外のところ、実は、何も解決されていなかったことにより、本当の自分の気持ちを知らされたようで不思議だった。
- 体の緊張に関心がむくようになり、体を感じようとするようになれた。もっともっと体いっぱいいろいろなことがみずみずしく感じられる人間になっていきたい。
- まだまだ私のからだはかたく他人をよせつけないようなところがあり、からだをバリアにしている。中のものを外にはきだしたり外のものを取り入れる手はじめとして呼吸を意識しだしている。
- 自分自身を知る手がかりを1つ見つけた。
- 自分のからだからの語りかけに耳をかたむけるということがとても新鮮で、こんなにも心の動きと密接な関係であったのかあらためて気づかされました。
- 呼吸を通して、自分のからだの内部に意識を向けることができた。

● 第4回人間関係トレーニング（Tグループ）

今年度は、会場を、御岳高原に移して実施した。紅葉にはまだ早い時期だったが、1400mの高原の大気を満喫しての、自由な雰囲気ですがすがしいトレーニングであった。

開催期間 1990年9月14日～19日 5泊6日 フォローアップ 1990年12月9日（日）

場所 御岳名古屋市民休暇村（長野県）

参加者 6名

担当者 山口真人・佐竹一予

ねらいとして提示されたものは、

いま、ここで
ひとりの人間として生きてみる

であった。

参加者の感想（アンケートから）

- 自分の話すパターンについて発見。
- 人（自分）の心とかかわれる場をもてた。
この感触を大切に生きていきたいと思う。
- 自分を受け入れることができた。
- 人とより深い関係を試みたいとねらって行動した事が大きなエネルギーを生み出した。
- 「やさしさ」「大きな人間」→ これから学んでいきます。
- 自分を否定すると何も出来なかったが、今は、いとおしく思えるので何か出来そうな気がする。
- 内面の思索の世界と人との感情的交わりが共存しえるということを学んだ。
- 心のつばを満たした。
- 相手の表情、心の動き、行動を感じとることの大切さとそれを感じとった時のすばらしさに気づいた。
- 相手をありのままに受けとめること → それができる自分がうれしかった。
- 自分のことで、こんなに深い所にまでたどれるものなのかを体で体験した。
- 客観的に自分をみる機会などないし、こんなに一つのことについて長い時間をかけて考えるということも実生活の中ではできないので、とてもよい時がもてた。

● その他

セルフサイエンス・セミナー（本文P〇〇参照）からだとことばのセミナーが実施された。

■ 社会人研修／人間関係特定研修講座

- 第7回 教師のためのセミナー
 - 第4回 組織内教育セミナー
- が前年度に継続して実施された。

Tグループ（人間関係トレーニング） フォローアップ

ねらい：Tグループ体験フォローアップ

- 日常生活への影響をわかちあう
- 現在の対人関係への気づきを深める
- 今後のことを考える

10:00 _____

• 再会 あいさつ

- 「Tグループの体験と日常生活」

Tグループの体験は、日常生活（職場、家庭、地域社会など）の場に、どのような影響を与えているか

- ① Tグループ後に体験したこと、感じたこと、考えたことをKJカードを使って、整理する（個人）

- ② 全体でわかちあう

12:00
昼食（ビデオ観賞）

13:00
③ 「私の対人地図」をつくる

- 個人で地図をつくる
- 全体でわかちあい

- ④ これからを考える

15:00 _____

全 日 程 表

人間関係研究センター
御岳 1990.9.14~19

第1日 9月14日(金)	第2日 9月15日(土)	第3日 9月16日(日)	第4日 9月17日(月)	第5日 9月18日(火)	第6日 9月19日(水)
8:00	8:00 朝食(洋食)	8:00 朝食(和食)	8:00 朝食(和食)	8:00 朝食(洋食)	8:00 朝食(和食)
9:00	9:00 T3	9:00 T7	9:00 T10	9:00 T13	9:00 9:30 チェックアウト
10:00	10:15 10:30 11:00 T4	10:15 10:30 11:00 T8	10:15 10:30 11:00 T11	10:15 10:30 11:00 T14	10:00 「今、そして、これから」 11:00 11:30 閉会
11:00					11:00
12:00	12:15 12:30 13:30 T2	12:15 12:30 13:30 T9	12:15 12:30 13:30 T12	12:15 12:30 13:30 T5	12:00 12:25 昼食 ——バス出発——
13:00	13:30 T5	13:30 自由時間	13:30 自由時間	13:30 自由時間	13:00 お気をつけて!!
14:00	14:00 受付	14:00 14:10 14:30 T6	14:00 自由時間	14:00 自由時間	14:00
15:00	15:00 15:15 15:25 G1	15:00 田の原敬策	15:00 G3	15:00 G3	15:00
16:00	16:00 「私の3つの窓」	16:00 自由時間	16:00 「グループの中の自分」	16:00 「個人のふりかえり」	16:00
17:00	16:58 17:05 17:45 T1	17:00 自由時間	17:00 「グループの中の自分」	17:00 自由時間	17:00
18:00	18:00 夕食(和食)	18:00 夕食(洋食)	18:00 夕食(和食)	18:00 夕食(中華)	18:00
19:00	19:15 T2	19:30 T9	19:15 T12	19:00 G5	19:00
20:00	20:45 21:00 21:15 T6	20:45 21:00 21:15 T9	20:45 21:00 21:15 T12	21:00 「グループのふりかえり」	20:00
21:00	21:15 「木」谷川俊太郎	21:15 夜のつどい	21:15 夜のつどい	22:00 「FINE FEATHERS」	21:00
	George Winston "Colors/Dance"	William Ackerman "Visiting"	WINDHAMHILL RECORDS PIANO SAMPLERより・In This Small Spot・Consolation	22:15 夜のつどい	

■ コンサルテーション

○「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は、訓練を受けたボランティアが電話を通して、さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの、良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年ロンドンで始められ、現在では世界40ヶ国、数百都市に設立されている。日本では、1971年に「東京いのちの電話」が開設され、今日まで東京、横浜、京都、大阪など30余りの都市に設立され、「日本いのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し、現在130名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは、名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で、相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行っている。1986年7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎訓練は「自己理解を深める」をねらいとして、1回2時間のセッションを毎週1回、計8回の体験学習プログラムを立案し、1985年度は第2期生（50名）の基礎訓練を1986年1月から3月に実施した。1986年度は第3期生（60名）の基礎訓練を1986年10月から12月に、1988年度は第4期生（37名）の基礎訓練を1988年4月から7月に継続研修も実施中である。1989年度は第5期生（32名）の基礎訓練を1989年9月から12月に、1990年度は第6期生（〇〇名）の基礎訓練を1990年〇月〇日から〇月に実施した。

ねらい：「自己理解を深める」

- 自分の価値観（考え方や行動の特徴）に気づく。
- 自分のありのままを表現する。
- 相手のありのままを聴く。
- 対人関係（自分との、他人との）のなかにある自分のあり方に気づく。
- 今、ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この訓練は、電話相談養成の目的で行われたものであるが、決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で、人とかかわりの中で、共に生きようとするときに、誰でも求められることがらの訓練としてプログラムされたものである。生涯学習のための一つのプログラムでもある。

1986～1990年度コンサルテーション及び依頼事業

(順不同)

講座名	主催
<p>電話相談コンサルテーション スクールODコンサルテーション リーダーとして備えるべきものは何か 情動を大切に教育 グループリーダー研修会 出会い・ふれあい・結婚 ヘルスカウンセリング指導者養成講座 人間関係訓練 教師と生徒とのコミュニケーション の中でどこまで訊けるか 人と人とのコミュニケーションについて カウンセリング講座初級講習会 青少年担当者・指導者養成事業 箱庭療法 箱庭療法研究会 人間関係トレーニング(Tグループ) 「おとしよりの人間関係・チームワーク」体験学習 教師と生徒の人間関係 リーダーシップについて…理論と実践… 習熟度別学習指導について 望ましいグループリーダー養成講座 PFスタディーの理論と実践 人間関係トレーニング …自己理解・他者理解のために… 非行少年の箱庭 生き生きグループ活動 昭和63年春期アドバンスコース 患者理解を深めるために 箱庭療法ケースセミナー 東海市教育委員会主催ヤングセミナー 人間関係をよくするために 女性が学ぶこと、ライフサイエンス カウンセリング講座 学校栄養職員研修会「リーダーシップの機能」 箱庭療法夏期研修会 老人福祉関係職員等研修事業 勤労青少年リーダー養成研修会 企業経営＝職場でのコミュニケーション 私学協会教育相談研究会 サークル活動をデザイン 研修・研究の調査 女性講座 気づき重視トレーニングの科学的根拠をさぐる 女性セミナー／青年セミナー グループの中の人間関係 女性管理者養成講座 生徒指導のあり方 なごやかスタッフ養成研修 カウンセリングセミナー ヤングセミナー (グループワークトレーニングの基礎知識) 社内研修会「なぜ今“気づき”なのか」 名古屋市民大学「グループリーダーセミナー」 自主グループの研修会 ライフサイエンスのめざすもの 自分を知るプログラムの体験学習</p>	<p>名古屋いのちの電話 聖カピタニオ女子高等学校 東海理化労働組合 遠州カウンセリング研修会 名古屋市千種社会教育センター 名古屋市瑞穂青年の家 愛知県教育委員会 名古屋市民生局 愛知県私学協会研究部 東海市教育委員会 愛知県看護協会 愛知県総務部 財団法人関西カウンセリングセンター 兵庫教育大学生徒指導講座 遠州カウンセリング研究会 名古屋市民生局 中部地区カトリック中・高等学校教職員教育研修会 愛知県労働部 香川県立小豆島高等学校 名古屋市千種社会教育センター 宝塚市立教育研究所 財団法人関西カウンセリングセンター 大阪家庭裁判所 名古屋市昭和社會教育センター 関西カウンセリングセンター 浜松市立看護専門学校 メンタルヘルス研究所、東京 東海市立青少年センター 戸塚協会名古屋支部 名古屋市教育委員会：名古屋市婦人会館 愛知県看護協会 名古屋市教育委員会 兵庫教育大学生徒指導講座 名古屋市民生局 愛知県労働部労働福祉課 名古屋商工会議所 愛知県私学協会 名古屋市瑞穂青年の家 奈良県教育センター 春日井市いぶき会 名古屋青年会議所 名古屋市中社会教育センター 名古屋市婦人会館 日本経営管理協会中部支社 平和町立平和中学校 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会 社会福祉法人あさみどりの会 東海市教育委員会教育長 MMC／マーケティング・マネジメント・センター 名古屋市生涯教育センター 婦人学習相談員グループ 名古屋青年税理士連盟 国立婦人教育会館</p>

社会人研修／参加者統計

講座名	場所	担当者	期	時間	曜日	参加者数	性別		居住地		職							業			年			齢			
							男	女	市内	市外	公務員	団体職員	会社員	自営業	医療関係	教育関係	教会関係	主婦	学生	その他	無答	20才	29才		30才	39才	40才
前回まで						821	227	594	45	527	45	38	224	27	77	132	33	116	71	55	2	412	212	135	57	5	
人間関係講座 No.27	南山短大	山口 佐竹	H2.5/7～7/16	9:30～12:00	月	23	0	23	15	8	0	0	0	0	1	0	4	14	0	3	1	3	7	8	4	1	
人間関係講座 No.28	〃	中堀 市瀬	H2.5/11～7/20	18:30～21:00	金	35	3	32	19	16	0	5	10	0	9	3	4	2	1	1	0	21	3	7	3	1	
人間関係講座 No.29	〃	星野・中野 まどか	H2.9/28～H3.1/11	18:30～21:00	金	38	10	28	20	18	3	2	13	1	3	5	1	7	1	2	0	18	10	6	4	0	
計						917	240	677	581	336	48	45	247	28	90	140	33	139	74	61	3	454	232	156	68	7	
前回まで						350	80	270	194	156	21	21	111	7	48	55	5	26	28	26	2	158	99	69	21	3	
ボディ・ワーク セミナー	南山短大	グラハバ	H2.5/12～7/21	9:30～21:00	土	22	1	21	10	12	0	1	11	0	0	2	0	7	0	1	0	13	2	5	1	1	
からだとはの セミナー	〃	竹内	H2.7/26～7/28		木金土	28	4	24	12	16	0	5	5	0	2	6	0	6	0	3	1	10	9	7	1	1	
Tグループ	御厩名古屋 市民休職村	山口 高木	H2.9/14～9/19		金～水	6	1	5	1	5	0	1	3	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	2	0	0	
T A入門	南山短大	中堀	H2.10/4～12/23	18:30～21:00	木	30	6	24	13	17	1	2	11	0	5	8	0	1	1	1	0	16	8	4	2	0	
セルフサイエンス セミナー	〃	津村	H2.10/2～12/25	18:30～21:00	火	18	5	4	13	6	0	1	10	0	1	3	0	1	1	1	0	9	6	1	2	0	
T Aによる自己啓発	清里 清泉寮	中堀	H3.3/21～3/23		木金土	13	3	10	5	8	1	0	4	0	2	2	1	0	1	1	1	7	1	2	1	2	
計						467	000	367	241	226	23	31	155	7	58	76	6	41	31	35	4	217	125	90	28	7	
前回まで						163	55	108	85	78	1	6	28	7	6	82	25	2	0	4	2	33	62	41	26	1	
教師のためのセミナー	南山短大	河津	H2.7/23～7/25		月火水	8	2	6	2	6	0	0	0	0	0	5	0	1	1	0	1	0	1	2	4	1	0
組織内教育セミナー	〃	星野	H2.9/29～H3.2/13	14:00～17:00	土	18	10	8	9	9	1	2	8	1	1	2	0	0	1	0	2	0	3	1	2	2	
計						189	67	122	96	93	2	8	36	8	7	89	27	3	1	6	2	36	74	48	28	3	
総計						1573	407	1166	918	655	73	84	436	43	155	305	75	183	106	102	9	707	431	294	124	7	

■ 社会人研修／人間関係研究センター1991年度事業予定

南山短期大学人間関係研究センター
The Center for the Study of Human Relations
of Nanzan Junior College

個性ある生き方と人間性豊かな社会をつくり出すために

私たちは一人ひとり豊かな人間性と独自の個性を持ったかけがえのない存在です。ところが現代社会の中で私たちは、役割の中に埋没し、互いに心を閉ざし、かかわり合うことをおそれ、人間をあたかも物の如くに扱い、自分も取るに足らぬ者としか感じられなくなっていないでしょうか。

人間関係の教育は、対話を通して自分の価値観や人生観をみがき、他者への思いやりと感受性を豊かに養い、ひとりひとりが生かされるグループや共同体を形成し、人間疎外の社会を愛と信頼関係のあふれる人間尊重の社会へと変革することと、それらの担い手を育てることに取り組みます。

いまこそ本当に人間関係の教育が必要とされているのです。

一般研修

人間関係講座 一基礎研修一

自分自身のことをもっとよく知りたい、自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい、グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたい、など人間関係の学習の主要テーマを、特別に開発された実習を、個人やグループになって行いながら、体験的に学習してゆきます。この研修は、毎週一回ウィークディの午前中（9：30～12：00）と夜間（6：30～9：00）を用いて、10週間で一コースになるように計画されています。春2回・秋1回開催しております。

第30回 人間関係講座

1991年5月13日（月）～7月22日（月）午前9時30分～12時

第31回 人間関係講座

1991年4月23日（火）～7月2日（火）午後6時30分～9時

第32回 人間関係講座

1991年9月27日（金）～12月13日（金）午後6時30分～9時

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）

〔参加定員〕 30名

〔会場〕 南山短期大学

〔参加費〕 18,540円（消費税を含む）

継続研修

基礎研修を終了した方や、既に体験学習による研修に参加したことのある方で、さらに学習を深めたい方々のための研修です。宿泊あるいは通いで集中的グループ体験による研修や毎週一回8～13回程の研修が予定されています。

TA入門

エリック・バーンによって開発された交流分析（TA）を用いながら、自分自身の自我状態や人生脚本の点検を通して、他者と共に生きる自分のあり方をさぐります。

〔日 程〕 1991年9月26日（木）～12月12日（木）午後6時30分～9時

〔担 当 者〕 中堀仁四郎

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方

〔参加定員〕 20名

〔会 場〕 南山短期大学

〔参 加 費〕 18,540円（消費税を含む）

アドバンスTA「TAによる自己啓発」

TAを中心に、ゲシュタルトセラピーなどの考え方もとりいれながら、自己に焦点をあてます。ゆったりとした環境の中で、グループで助け合いながら、自分をふりかえったり、自分の可能性を探ったりして、エネルギーを充電する時としたいと思っています。

〔日 程〕 1992年3月20日（金）～22日（日）2泊3日

〔担 当 者〕 中堀仁四郎

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で、原則としてTAの入門コースを経験している方

〔参加定員〕 10名

〔会 場〕 多治見修道院研修センター

〔参 加 費〕 25,750円（消費税を含む）

滞在費は実費（15,000円程度）を別途徴収します。

セルフ・サイエンス

アメリカ（University of Massachusetts）にて、ウエインシュタイン教授が提唱するトランペット・セオリー（The Trunpet）に基づいて、対人関係の中で自分の行動パターンを明確にするとともに、そのパターンの変革を試みようとしています。

〔日 程〕 1991年9月24日（火）～12月17日（火）午後6時30分～9時

〔担 当 者〕 津村俊充

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方

〔参加定員〕 25名

〔会 場〕 南山短期大学

〔参加費〕 21,630円（消費税を含む）

からだとことばのセミナー

人が人と向いあい、近より、ふれ、かかわり、そして応え、ことばを交わすこと、その基盤となる自分のからだに気づき、動き出してみようと試みてみたいと思います。

- ・ひとにふれ切れない自分にきづく
- ・自らのからだのこわばりにきづく
- ・からだをときほぐす
- ・感じるままに動く
- ・他者に働きかける
- ・ことばで働きかけ、そして応える

短い時間でどれだけのことが成り立つかわかりませんが、からだ全体が深くいきいきと動き出す感覚が、湧き出してきたらいいな、と思います。

〔日 程〕 1991年7月28日（日）～30日（火）（3日間集中）

〔担当者〕 竹内敏晴

〔参加定員〕 30名

〔会 場〕 南山短期大学

〔研修費〕 31,930円（消費税を含む）

ボディワーク・セミナー

生きるということ、私が生きるということを考え、成長しようとする時、様々な道があります。

その手がかりの一つとして、からだという、実際に見たり触れたりできるものがあります。

このセミナーでは、自分のからだに気づくいろいろな実習を通して、より自然でゆったりとしたからだ♥自分になってみようとするものです。

〔日 程〕 1991年5月11日（土）～7月6日（土）午後 1：00～4：00

〔担当者〕 グラバァ俊子（南山短期大学）

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）

〔参加定員〕 20名

〔会 場〕 南山短期大学

〔参加費〕 18,540円（消費税を含む）

一人間関係トレーニング（Tグループ）

「人間関係トレーニング」では、小グループという“今・ここ”の場の中に生じるメンバー間のコミュニケーションや影響関係を学習の素材とする学習方法をとります。実際に自分が、他者とのように関わっているかに気づき、吟味し、新たな可能性を試みることを通して、人間存在に対する理解を深め、人間関係の本質を体験的に学んでゆきます。そこでのひとつひとつの影響関係が有機的につながって、より深い人間関係を生み、次第にグループというまとまりが育っていく過程の学習そのものを学びます。

〔日 程〕 1991年9月12日（木）～17日（火）5泊6日

〔担 当 者〕 中堀仁四郎・津村俊充・市瀬英昭・寺西佐稚子

〔参加定員〕 20名

〔会 場〕 御岳名古屋市民休暇村

〔参 加 費〕 53,560円（消費税を含む）（滞在費は35,000円程度別途徴収）

これまでの参加者の感想（アンケートから）

あなたがこの研修で得たり、学んだことは？

- ・今ここで生きるという意味がわかった。
- ・今ここで生きることの価値がわかった。
- ・苦しそうな顔をみると、何とかしたくって、話をふったりちゃかしたりします。でもそれはユーモアでも優しさにもならず、相手の人はとりのこされてさみしいしっかり相手を見ようと思います。自分に関心を移さず、しっかり相手を見つめようと思います。
- ・人間を真に信じること
- ・あるがままに受けいれる

プログラムの流れ（相互関連）について

- ・ふりかえり用紙をあとでお互いに見ることが出来てとてもよかった。表現された言葉と内面とさらにふりかえりと他の人とのことを真実に知ることができて感動の連続であった。関連がなさそうによく考えたらすごい影響があったとおもいます。

Gセッション全体会について

- ・CODの実習であれだけ生き生きとした体験をしたのは、実は初めてです。特に協力ゲームは良い体験ができたと感じています。

特 定 研 修

教師のためのセミナー

「子供の真実の姿を理解していることは、効果的でなお創造性のある授業の実現に半ば成功したようなものだ」と言われますが、現在の教室での状況はいかがでしょうか。子供の真実の姿を理解

するどころか、教師として子供たちの見せかけの言動にまどわされたり、色眼鏡で子供たちを見てしまったり、自分の感受性の乏しさに気づかないこともしばしばですし、逆に子供たち自身が自分の真実を見失ってしまっていることすら起こっています。このセミナーでは、学級の中の子供たちのありのままの姿をみる目を養い、ひとり一人の子供の真実に迫る視点を探ります。

このセミナーのプロセスは教職にある人々の相互啓発による自己発展と自己成長の機会になると思います。

- 〔日 程〕 1991年7月25日（木）～27日（土）（3日間集中）
- 〔担 当 者〕 河津雄介（百芳教育研究所）
- 〔参加資格〕 現在教職についている方または教育に関心の深い方
- 〔参加定員〕 25名
- 〔会 場〕 南山短期大学
- 〔参 加 費〕 31,930円（消費税を含む）

ファシリテーター・トレーニング

円高ドル安、社会の高齢化などきびしい社会情勢の中で、企業内教育はいま一つの曲り角にあるといわれますが、いかがでしょうか。このような機会に、日頃企業内の教育にかかわっていたり、関心をもっておられる人たちが集まって勉強会をしてみたらと思い、次のような企画を立ててみました。気楽に、話し合ったり、実習をしながら、これからの企業内教育のあり方などを共に探りたいと思います。

- 〔日 程〕 1991年9月28日（土）～1992年1月25日（土）午後2時～5時
- 〔担 当 者〕 星野欣生
- 〔参加資格〕 何らかの体験学習を経験したことのある方
- 〔会 場〕 南山短期大学
- 〔参加定員〕 20名
- 〔受 講 料〕 43,260円（消費税を含む）

注）1991年度開講予定のプログラムの日程等に関するご質問は南山短期大学人間関係研究センター（Tel. 052-832-6214・6211）までお問い合わせ下さい。



南山短期大学人間関係研究センター規程

第1条 本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という。）をおく。

第2条 センターは、キリスト教的人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第3条 前条の目的を達成するために、次の各号の事を行う。

- 1 人間・人間関係に関する研究と教育の推進
- 2 センターと目的を共通にする学外研究機関との協力
- 3 地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等
- 4 研究成果の刊行および文献・資料の収集と一般への公開
- 5 その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第4条 センターに研究員を置き、そのうち1名をセンター長とする。

② 研究員およびセンター長は学長が委嘱する。

第5条 センター長は、センターの事業を掌理し、センターを代表する。

第6条 センターは、必要に応じて顧問、相談員および講師をおくことができる。

第7条 センターは、その目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

② 研修生についての規程は、別に定める。

第8条 センターに事務職員をおく。

② 事務職員は、センター長の指示をうけてセンターの事務を担当する。

付 則

本規程は、昭和52年9月30日より実施する。

南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1990年4月～1991年3月）

センター長	星野 欣生				
研究員	會澤 俊三	グラバア俊子	樋田大二郎（在イギリス）	市瀬 英昭	
	伊藤 雅子	河津 雄介	木村 晴子	まどか庸代	宮本 桂
	文珠紀久野	中堀仁四郎	中野 清	大森 正樹	R. A.メリット
	鈴木 貞雄	竹内 敏晴	津村 俊充	山口 真人	（ABC順）
事務局	菅野 均美	牧 香里			

編集後記

制度としての生涯学習への懸念

生涯学習の切り口は様々です。文部省生涯学習局が創設（1988）され、巷で、もしくは教育行政関係者の間で「生涯教育から生涯学習へ」という語が意識されています。もしくは、何かしなければ……というイベント（行事）として講演会やセミナー企画、カルチャーセンターが盛んになってきているようです。その影響か、私どもの人間関係研究センターのスタッフたちも、社会人研修等を通して「生涯学習」の実践者として、様々な機関から講師依頼を受けることがあります。

「時代のニーズ」は、官立組織の「生涯学習」の講師・担い手・ソフトウェアとしての人材を探し始めています。最近とりざたされているのは、「生涯学習」という用語の意味や、ビジョンや実践的プログラムです。ですから、「生涯」や「学習」とは何かという原点に立ち戻りながら実践することも必要かもしれない。今さら言うまでもなく人は生まれる前から先代の「学習」や「教育」環境におかれ、人は生を受けたその瞬間から親子共々育ち合い、生涯学習しているのです。生涯学習の最大の担い手は、実は、その人の自律的な一生そのものともいえます。

しかし、「教育」や、「学び」や「学び合い」や人を育てるということが、人の生活にとって当然の自然の素朴な言葉であっても、それが制度化して「教育制度、学校教育、社員教育、研修」となると、そこには素朴な人間成長の響きが失せてきます。

最近、生涯教育や生涯学習は、制度化・政策化されようとしています。私は、生涯の学習（人が一生学ぶ）という人間の本来の姿が「生涯教育」という教育制度化運動の波にまみれて再び他律的知識・情報教育に陥ってしまう事を恐れています。

「生涯教育から生涯学習へ」という movement は、人の意識変革や教育のパラダイム転換をもたらし得るものです。ここでひとりひとりにとって人間が育つてなあーに、人間が学ぶってなあーに、一体、人のいのちというものを人々はどうか大切にしているの？という、人の生涯観、人の教育観が生涯学習の自律性を形つくっていく大きなエネルギー源となる事を期待しながら、私ども、人間関係研究センターでの実践者が構築してきた「生涯学習プログラム」を編集させて頂き、この時代のニーズに対する問いかけとして参りたく存じます。

「人間関係」第8号生涯学習の特集を組むにあたり、当センター員の様々な生涯学習観が浮彫りにされました。今回収めていない思索や試みもまだまだございますのでご期待下さいませ。

尚、編集に際して、尾頭橋印刷所 佐藤氏とセンター事務局 牧さんには大変忍耐強くお世話頂き、又、ご投稿下さった先生方、スタッフの皆様にお励まし頂き、ここに心よりお礼申し上げます。

人の生涯の学び に お互いの一生を仕い合っていることを思いつつ、

（まどか 庸代 記）

目次

特別講演 コンティンジェンシー理論について—現状と課題— 野中郁次郎 2
特集 「Tグループ」
JICEラボラトリー・トレーニングの変遷(その1) 中嶋仁四郎 11
高等教育におけるTグループの実践 星野欣生・山1 真人 36
人間関係科Tグループ実践をめぐって 座談会 77
Tグループによる学習過程理解のための方法的研究1)
一学生の形容詞語彙表現による雰囲気理解への多角的アプローチ— 津村 俊充 90
Tグループに於ける女性
—規範と性別に由来する問題点— KANTER・倉澤俊三 99
専業報告 (1977年—1983年)
I 研究会
1. 「コンティンジェンシー理論について」 野中郁次郎(橋大学) 108
—現状と課題—
2. 「大学教育におけるTグループ適用の試み」 星野 欣生(南山短大)
—教育の変革を求めて— 山1 真人(南山短大) 109
3. 「これからのカウンセリングのあり方」 小林 純(上智大学) 111
4. 「わたしの歩んできた道」 富山 徳園(上智大学) 113
5. 「ヒューマニスティック・エデュケーション
の動向と自己成長への身体的アプローチ」 グラビア俊子(南山短大) 116
6. 「フーバーと教育—我と流を中にして—」 長行寺 功(金沢大学) 118
7. 「With-nessということ」 星野 欣生(南山短大) 120
—教師・学生関係について—
8. 「関係の神学」 奥村 一郎(聖母学院短大) 122
9. 「教育を考えたおす」 伊東 博(横浜国立大学) 126
10. 「からだ・ことば」 竹内敏晴(宮城教育大学) 128
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 132
2. 人間関係専門研修講座 134
3. 人間関係特定研修講座 137
4. 社会人研修参加者統計 140
5. 1984年度社会人研修予定 141
III 南山短期大学人間関係研究センター規程 142
IV 南山短期大学人間関係研究センター研究員 143

目次

特別研究会 人間関係の教育—河合 肇 2
特 集 「人間教育における体験学習」
I 高等教育における体験学習
1. 南山短期大学人間関係科の教育の概観 星野 欣生 39
—10年の変遷と展望—
2. 人間関係科における教育の試み R.A.メリット 47
—見直された体験学習—
3. 「人間関係訓練による」体験学習 柳原 光 64
—トレーニングから学習へ—
II 南山短期大学人間関係科の10年
1. 教育の実践
—学次の授業の流れ— 83
1) キリスト教概論I, II, III 宮本 桂 84
2) 人間関係概論A, B 柳原 光 89
3) 人間関係基礎論I(哲学的基礎・同演習) 倉澤 俊三 95
4) 人間関係基礎論II(心理学的基礎・同演習) グラビア俊子 100
5) 人間関係基礎論III(社会的基礎・同演習) 山口 真人 106
6) 人間関係研究法(その1) 星野 欣生 114
7) 人間関係研究法(その2) 星野 欣生 117
—フィールドワーク—
—学次の授業の流れ— 123
8) 人間関係各論I(家庭に関する領域) 伊藤 雅子 124
9) 人間関係各論II(組織・集団に関する領域) 山口 真人 132
10) 人間関係各論III(文化に関する領域) 森田 茂彦 136
11) 人間関係各論IV(教育に関する領域) R.A.メリット・倉澤俊三 141
12) 人間関係各論V(心理学に関する領域) グラビア俊子 145
13) 人間関係総合実習(合同) 山口 真人 150
14) 人間関係実習III(卒業研究) 星野 欣生 156
2. 学生の学びとその軌跡
1) 在学2年間で卒業後5年間の個人の成長記録から 倉澤 俊三 162
2) 卒業生の進路調査から 津村 俊充 179
3. 人間関係科に新しくかかわる教員として
1) 教師と学生のかかわりをめぐって 木村 晴子 205
—心理臨床分野の教員として—
2) 「体験学習」をめぐって 中野 清 208
—体験と知とコトバ、知の権威を求めて—
投稿 JICEラボラトリー・トレーニングの変遷(その2) 中嶋仁四郎 217
専業報告 (1984年)
I 研究会
1. 「もう一つの主婦像—商店のおかみさんたち」 天野 正子(千葉大学) 269
2. 人間関係科における体験学習 グラビア俊子(南山短大) 271
—一教員の十二年間—
3. 体験学習と理論学習をめぐって 中野 清(南山短大) 273
—評価をめぐって—
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 277
2. 人間関係専門研修講座 279
3. 人間関係特定研修講座 281
4. コンサルテーション 283
5. 社会人研修参加者統計 285
6. 1985年度社会人研修予定 286
III 南山短期大学人間関係研究センター規程 288

目次

特別研究会 人間関係と自己表現 竹内 敏晴 2
特集 「自己表現」
I 自己表現ワークショップからの報告
自己表現ワークショップの概要 山口 真人 33
ワークショップ1 「私の仮面作り」 木村 晴子 36
ワークショップ2 「自由に語り、感ずるままに！」 倉澤 俊三 46
ワークショップ3 「クリエイティブ・ペインティング」 山口 真人 53
ワークショップ4 「オリエントミミ」 グラビア 俊子 60
ワークショップ5 「情熱とスペイン舞踏—感情と表現—」 まどか 廣代 71
ワークショップ6 「絵本つくり—誕生—」 文珠紀久野 86
II 自己表現をめぐっての考察
1. チームづくりと自己表現 星野 欣生 93
2. 神経体験にみる自己表現 大森 正樹 98
3. 現代文化と自己表現 植田大二郎 102
ミニレクチャー
体験学習 星野 欣生 109
プロセスとは何か 津村 俊充 116
コミュニケーション・プロセス 山口 真人 120
邦訳ミニレクチャー
センチビリティ・トレーニングとは何か Charles Seashore(津村俊充訳) 125
グループ: その誕生から死までのサイクル Richard C. Weber(津村俊充訳) 130
レポート
人間関係研究センター社会人研修
「人間関係基礎研修の理論と実践」 津村 俊充 137
究員研究員から報告
「私の人間関係体験学習の中で」 高平百合子 150
専業報告 (1985, 1986年度)
I 研究会
1. 「今日からみた人間関係科創設の意義」 福田 慶輔 153
2. 「スペインにおける生命倫理研究の現状」 まどか 廣代 155
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 158
2. 人間関係専門研修講座 159
3. 人間関係特定研修講座 160
4. コンサルテーション 164
5. 社会人研修参加者統計 166
6. 1987年度人間関係研究センター事業予定 167
南山短期大学人間関係研究センター規定 169

目次

巻頭言 星野 欣生
特別研究会 「学習者を中心にすえた教育のあり方めぐって」 河津 隆介 2
特集/Tグループの中に生きる
1. 個を生かす集団・集団を生かす個 星野 欣生 45
2. キリスト教における個と集団 市瀬 英昭 50
3. 現代科学における個と集団の問題をめぐって までか 廣代 55
—原子論からバイオエレクトロニクスの発想まで—
4. 人間関係科教育における個と集団 山口 真人 69
—関係に定位した教育の実現をめざして—
5. 「個」と「集団」 植田 大二郎 77
—合流教育実践からの考察—
6. チームづくりのトレーニングと組織開発 星野 欣生 91
山元由美子
猪熊 京子
松本 寛之 121
田辺 昂
7. 企業内研修におけるグループトレーニング 121
8. 南山短大における集団不遇感 木村 晴子 130
—一学生相談室開設に向けての報告—
ミニレクチャー
援助するということ 竹内 敏晴 139
態度価値と責任性存在 大森 正樹 144
対人感受性の開発 山口 真人 149
—人間関係トレーニングの原理と実際—
レポート
NTLにおける最近のラボラトリー・トレーニング 津村 俊充 157
専業報告 (1987年度)
I. 研究会 171
II. 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 175
2. 人間関係専門研修講座 178
3. 人間関係特定研修講座 180
4. コンサルテーション 183
5. 社会人研修参加者統計 185
6. 1988年度人間関係研究センター事業予定 186
南山短期大学人間関係研究センター規定 190

目次

巻頭言 伊藤 雅子

特別研究会：「自己との対話 十牛の図」..... 柳田 聖山... 1
 「水月の極意付り中墨のこと」..... 上原 輝男... 36

特集/対話

1. 対話的生 宮本 桂... 49
2. からだの対話 竹内 敏晴... 57
3. Cross Cultural "Dialogue" in the Age of Commodity Culture R. A. メリット... 72
4. 典礼一神と人との対話 市瀬 英昭... 89
5. 神との対話としての祈りとアイコン 大森 正樹... 93
6. 聴くということ 木村 晴子... 97
7. 専門化社会とおせっかい 樋田大二郎... 103
 —教師と生徒の対話についての一考察—
8. 科学人と宗教人との対話 まどか庸代... 115

投稿：【翻訳】人間学..... O. マルカード（中野 清訳）...127

レポート：教師のためのセミナー..... 山口 真人...147

ミニレクチャー：
 アクション・リサーチ 星野 欣生...155
 人間関係の変革 山口 真人...160
 —社会的感受性と人間関係のスキル—

専業報告（1988年度）

1. 人間関係基礎研修講座168
2. 人間関係専門研修講座171
3. 人間関係特定研修講座177
4. コンサルテーション180
5. 社会人研修参加者統計182
6. 1989年度人間関係研究センター事業予定183

南山短期大学人間関係研究センター規定187

目次

巻頭言 津村 俊充

特別研究会：「体験学習とキリスト教教育」..... 坂口 順治... 1

特集/Tグループ再考

1. Tグループの倫理 中堀仁四郎... 35
2. Tグループと男性教育 まどか庸代... 49
3. Tグループに関する2つの考察 木村 晴子... 60
4. ラボラトリ教育におけるプログラミングについての考察 津村 俊充... 67
 —Tグループを中心にした教育実践に向けて—
5. トレーナーになること 星野 欣生... 79
6. 対話的教育—M. ブーバーの教育論をめぐって 宮本 桂... 89
7. 学生にとってのTグループの意味 文珠紀久野... 99
8. Tグループに思う

- (1) 運い気づき R. A. メリット...136
- (2) Tグループトレーニングの場に臨むとき 會澤 俊三...138
- (3) Tグループで思うこと 大森 正樹...141
- (4) Tグループトレーニングの経験と家族 伊藤 雅子...143
- (5) Tグループ実践への提案 津村 俊充...146
 —私のTグループ体験から—
- (6) wendepunkt—私のTグループ グラビア 俊子...150
- (7) Tグループ随感 竹内 敏晴...153

レポート：Tグループの実践 浜本孝子・河原紀久子...155
 南山短期大学人間関係科でのTグループ合宿の動向 星野 欣生...173

ミニレクチャー：
 Tグループ 山口 真人...179
 TグループQ&A 星野 欣生...189
 人間関係とフィードバック 津村 俊充...199
 効果的なコミュニケーションのための5つの要素 中堀仁四郎...203

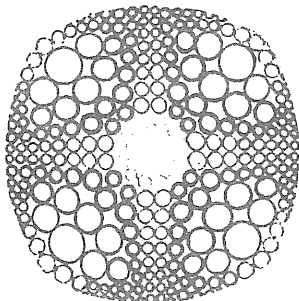
専業報告（1989年度）

1. 社会人研修概要209
2. 人間関係基礎研修講座210
3. 人間関係専門研修講座213
4. 人間関係特定研修講座215
5. コンサルテーション217
6. 社会人研修参加者統計219
7. 1990年度人間関係研究センター事業予定220

南山短期大学人間関係研究センター規定225

編集者 星野 欣生
 津村 俊充
 まどか 庸代

人間関係 第8号
 1991年3月20日 発行



編集発行者 〒466 名古屋市昭和区準人町19番地
 電話 (052) 832—6 2 1 4・6 2 1 1
 南山短期大学人間関係研究センター
 代表者 中堀 仁四郎

印刷所 (株)尾頭橋印刷所
 名古屋市中区南脇町3丁目20番地
 電話 (052) 351—6 2 3 1番(代表)